

農作物技術情報 第6号 野生獣対策

発行日 令和8年8月27日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ クマ人身被害防止 引き続きクマへの最大限の注意をお願いします。
- ◆ クマの特徴と対策 20～70 cmの3段を基本に電気柵を設置しましょう。

1 クマ人身被害防止

- ・ 例年に比べてクマの人里への出没が相次ぎ(図1)、死亡につながる人身事故が3件発生するなど(図2)、これまでにない危機的な状況となっています。
- ・ 今後もリスクが高い状況が続くことが見込まれますので、クマ出没状況アプリ「Bears」(図3)などにより出没状況を確認するとともに、これまではクマの出没がない地域においても、最大限の注意をお願いします。

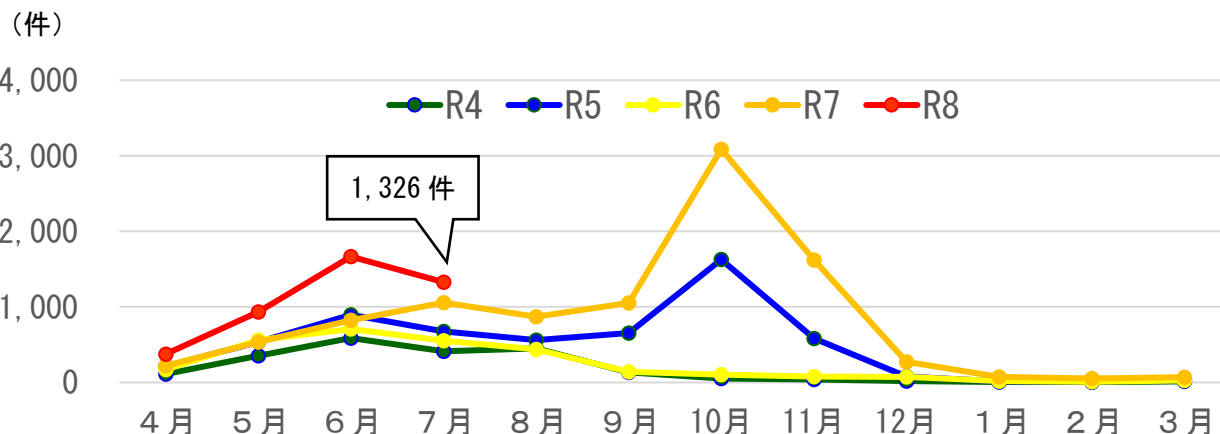


図1 クマの出没件数 (8/21 現在)

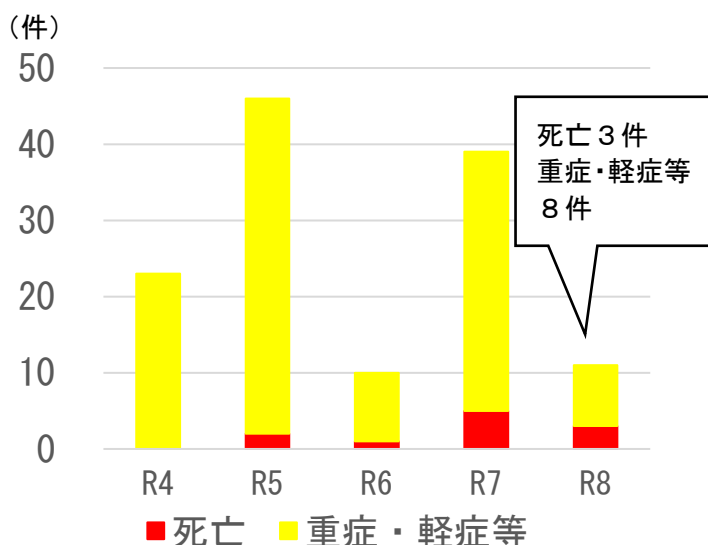


図2 クマによる人身被害 (8/4 時点)



図3 クマ出没情報アプリ「Bears」

こちらの2次元コードから登録できます！



2 野生獣の特徴と対策：ツキノワグマ

(1) 被害の現状

- ・ ツキノワグマによる農作物被害面積及び被害金額は、**年度により増減**があり、被害面積は約 25～80h、被害金額は約 1 億円～3 千万円で推移しています（図 4）。
- ・ 令和 6 年度の品目別被害金額は、**果樹、飼料作物、稲の順**となっています（図 5）。

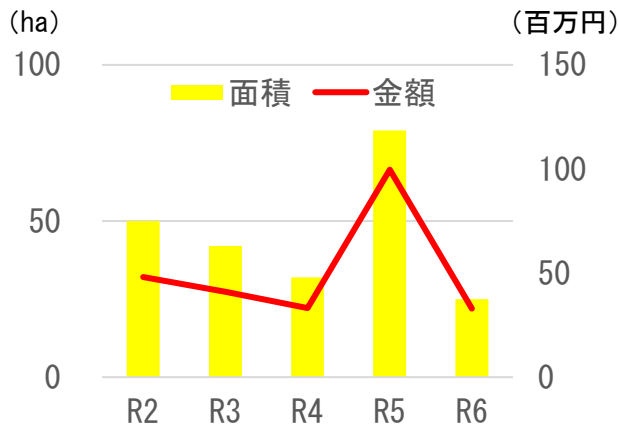


図 4 ツキノワグマによる被害面積及び金額の推移

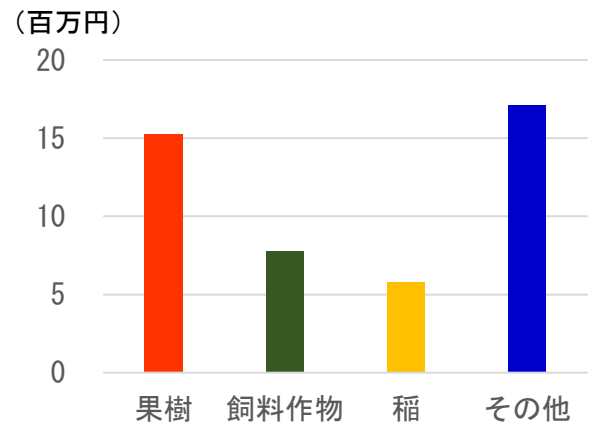


図 5 ツキノワグマによる上位 3 品目被害金額

(2) 生態

食性	植物を中心とした雑食性。
繁殖	樹洞や岩穴で越冬し、 2 頭 の子を産む。 子グマは 1 歳半頃まで母グマと生活する。
行動範囲	オス 40～70 km ² 、メス 20～30 km ² 。昼行性であるが、人里に降りて活動するときは、人との接触を避けるために 夜行性 に変わる。
その他	食べ物への 学習能力 が高く 執着 する。 一般的に考えられているよりもおく病で、おとなしい性質。

【参考】季節ごとの行動パターン

春	フキノトウ、ミズバショウ（写真 1）などの山菜、新芽や花、昆虫などを食べる。
夏	涼しい時間帯に、果実や昆虫（写真 2）などの食料を求めて歩き回る。
秋	クリ、ドングリ、ブナ（写真 3）などを食べ、冬眠に向けてエネルギーを蓄える。
冬	巣穴にこもって冬眠する。母グマは巣穴で出産のタイミング。



写真 1 ミズバショウ



写真 2 壊された朽木のアリの巣



写真 3 ブナの実

(3) 農作物被害対策

ア 生息環境管理（よせつけない）

- ・ シカやイノシシと比較し**食べ物への執着**が強く、一度味を覚えると**繰り返し現れる**傾向があります。

- クマの通り道となりやすい河川付近の茂みや耕作放棄地を刈り払うとともに、クリやカキなどの放任果樹を伐採するなど、他の獣種以上に、地域やほ場に近づけないための対策が重要です。

イ 侵入防止対策（まもる）

- 電気柵を触った時に電気刺激による痛みを学習させることで、その後は自ら近寄らなくなる電気柵が最も有効です（写真4、5、[農作物技術情報第2号](#)参照）。



写真4 電気が通る部分



写真5 電気柵に触れて逃げるクマ

- 電気柵の高さは、20、40、70 cmの3段を基本に、併せてシカも防止する場合は、100、130 cmを加えた5段とします（表1）。
- クマが農作物の味を覚え、電気柵を適切に設置しても地面を掘ってほ場に侵入する場合は、最下段の外側に「トリップ柵」を1段（高さ20 cm）追加します（写真6）。
- また、県内では、「シカ対策」として電気柵を導入したため、電気柵の高さ、段数が「クマ対策」としては適切ではなく、クマの侵入を許している事例が見受けられています。
- ほ場に侵入する野生獣が変わった場合は、獣種に応じた電気柵への改修が必要になります（図6）。

表1 獣種別の電気柵の地上部からの高さ（単位：cm）

獣種	20	40	70	100	130
ツキノワグマ ・イノシシ	○	○	○		
ニホンジカ		○	○	○	○

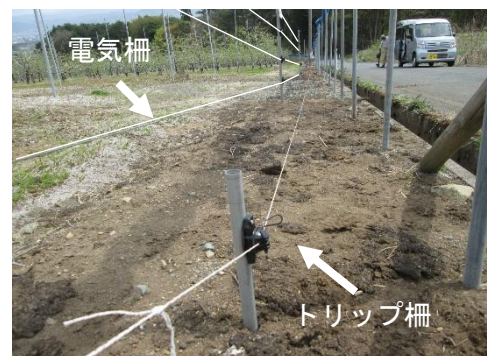
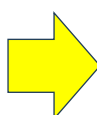


写真6 トリップ柵を追加
（トリップ柵の左側に5段の電気柵がある）



シカ対策で導入した電気柵
（5段：30、60、90、120、150 cm）



高さを調整しクマ・シカ兼用の柵に改修
（5段：20、40、70、100、130 cm）

図6 クマ・シカ兼用の電気柵への改修事例

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピールする。
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。